

# 1999 年度 春の学会 原子核三者若手総会議案書

## 1999 年度 春の学会 三者センター校議案書

### 1 予算案

99 年度三者センター校 北海道大学 若手

#### 1.1 予算の獲得について

- ・ 98 年度繰り越し金

473,174 円

- ・ 研究機関及び研究グループからの援助内訳（申請については予定）

機関名	区分	申請額	決定援助額
基研	講師の旅費等	600,000	500,000
基研	講義録印刷費等	300,000	200,000+ $\alpha$ * <sup>1</sup>
RCNP	講義録印刷費	100,000	未定
素粒子論グループ	DC abstract 集印刷費	30,000	未定
	三者共通講義開催費	100,000* <sup>2</sup>	未定

\*1:基研の 99 年度予算の状況によっては、増額もありうる。

\*2:これは三者共通講義講師旅費 (60,000 円) と会場設営費 (40,000 円) を含んでいる。

- ・ 夏の学校 参加費

373 人 \*<sup>3</sup> \* 3,000 円 / 人 = 1,119,000 円

\*3:98 年度実績

獲得予算合計 (予定) : 2,522,174 円

## 1.2 予算の配分について

	今年度予算(案)
三者	454,000
パート	174,000
講師の旅費等	500,000
講義録印刷費	270,000
三者共通講義開催費	100,000
DC abstract集印刷費	30,000
遠隔地旅費補助	740,000*4
合計	2,268,000

\*4:98年度実績

### 三者四役の予算案

機関名	今年度予算(案)	前年度予算
三者センター	10,000	10,000
三者事務局*5	4,000	30,000
三者準備校	400,000	400,000
三者名簿校	40,000	40,000
三者予算合計	454,000	480,000

\*5:98年度三者事務局の追加予算も含む。

### 備考

- 三者センター

申請項目	申請額
振込手数料	10,000
申請額合計	10,000

- 三者事務局

申請項目	申請額
振込手数料+郵送費(99年度)	3,000
郵送費(98年度)	1,000
申請額合計	4,000

- 三者準備校

申請項目	申請額
下見・契約代	30,000
ポスター代	60,000
郵送料	70,000
コピー代	50,000
文具費	10,000
補助*6	180,000
申請額合計	400,000

\*6:98年度秋の学会では、保留扱い。

- 三者名簿校

申請項目	申請額
郵送料立て替え*7	40,000
申請額合計	40,000

\*7これは、厳密には支出ではない。

#### 各パートの予算案

パート名	今年度予算(案)	前年度予算
高エネルギー	38,000	28,600
原子核	87,000	99,980
素粒子	49,000	60,000
パート予算合計	174,000	188,580

#### 備考

- 高エネルギー

－ 高エネルギーパート準備校

申請項目	申請額
講義録作成費	8,500
OHP 関連	8,000
輸送費	7,500
雑費	2,000
事前宿泊費*8	12,000
申請額合計	38,000

\*8:98年度秋の学会では、保留扱い。

- 原子核

－ 原子核パート準備校

申請項目	申請額
Review Talker への謝金	40,000(20,000 × 2)
Topics 講師への謝金	30,000(30,000 × 1)
諸経費	15,000
申請額合計	85,000

－ 原子核パートセンター校

申請項目	申請額
振込手数料	2,000
申請額合計	2,000

● 素粒子

－ 素粒子パート準備校

申請項目	申請額
録音関係費	23,000
通信関係費	7,000
消耗品代	8,000
研究会費	10,000
申請額合計	48,000

－ 素粒子パート事務局

申請項目	申請額
通信費	1,000
申請額合計	1,000

## 2 99年度新計画

### 2.1 夏の学校の活性化

今年度は、以下のような新企画が夏の学校で行われる予定であり、すでに各パートで実行に向けて計画が進行している。

1. 三者共通講義の開催

99年度は、素粒子、原子核、高エネルギー分野の枠を越えて興味を持たれている Topics を取り上げる三者共通講義を行います。三者共通講義の題目は、『ニュートリノ振動と陽子崩壊』です。講師は、梶田隆章氏(東大宇宙線研究所 神岡宇宙素粒子研究施設)です。

2. 研究会形式の見直し

(a) ポスターセッションの導入

研究会の参加者を増やすために、原子核パートでは、ポスターセッションを行います。

### 3. DC,MC の交流の機会の拡大

#### (a) 参加者 DC abstract 集の作成

これは、夏の学校の DC 参加者に、参加申し込みの時点で、自分の所属大学、所属研究室、研究課題 (予定も含む)、課題についての簡単な abstract を書いてもらい、それを一つの本にまとめて、夏の学校で、参加研究室に一冊ずつ配るというものです。従来の夏の学校では、あらかじめ個人の研究課題がわからなかったために、学生間で、研究についての議論ができにくい環境でしたが、この abstract 集を夏の学校開始日に配ることにより、MC と研究経験の豊富な DC の交流を活発にします。

#### (b) 研究課題を携帯バッジに記載

これは、夏の学校で配られる研究室名と名前が書かれたバッジに、研究課題が決まっている人は、研究課題も入れて、研究についての話題が出やすくするものです。これにより研究についての議論がしやすくなるのを狙っています。

#### (c) DC,MC 懇親会の開催

今年度、素粒子パートでは、参加 DC の preprint abstract 集を作って配り、それを話題にして、DC と MC の懇親会をやるという企画をして好評でした。来年度は、三者としてこのような企画を公式に立ち上げて、共同研究など、研究成果が生まれやすい環境を整えていこうと考えています。

日本物理学会の協賛

- 昨年に引き続き日本物理学会から協賛をいただきました。

ポスター

- ポスターについては現在デザインが決まり印刷会社に見積りをお願いしている。
- 印刷は若手名簿に載っている全研究室、各研究所、現地に掲示するもの、予備、合わせて 220～250 枚程度を予定しており、予算どおり 6 万円程度かかる見込み。
- また、ポスターとパンフレットの郵送については昨年と同様、郵送費節減のため同一住所の研究室にはまとめて送り、各自で振り分けていただきたい。

夏の学校 web page

- 夏の学校の web page を作成し <http://higgs.phys.kyushu-u.ac.jp/yonupa/> に公開している。決定事項がありしだい順次更新していく。また、決定事項以外にも議論の経過なども載せていく予定。

#### 担当校決めについて

- 2年後の担当校を決める（1999年の夏の学校では2001年の担当校を決める）
- 現在のローテーションに参加していない大学を加える方向で話し合う

そこで、新たにローテーションに加わってくれる大学を獲得するには、三者四役の仕事はどのようなものであるかをある程度理解してもらうことが必要であると考え、役職校の方々にタイムテーブルを作成して頂いた。今後、各大学の夏の学校への参加状況等を考慮して、個別に交渉していく予定。

#### 引き継ぎ体制

- 3代（昨、今、次年度）から成る役職校メーリングリスト
- その他

#### 責任の所在

- 四役の中から責任校を決める

責任の所在を明確にする